

自己点検評価報告

2016年

京都大学人文科学研究所



I 研究施設の概要

目的

多民族・多文化間の調和ある共生に資する知見を人文科学の分野から発信する

組織

5部門(文化研究創生、文化生成、文化連関、文化表象、文化構成)

2附属施設(東アジア人文情報学、現代中国)

みやこの学術資源研究・活用プロジェクト

研究体制

多様な関心に基づく個人研究

高頻度で開催されるハイレベルの共同研究

公募型12件、公募型以外12件(H27年度)

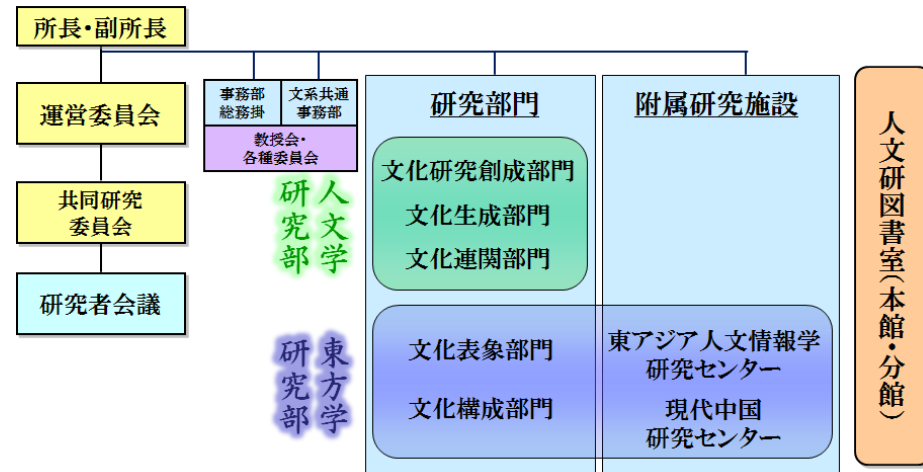
設備

共同研究室、図書閲覧室

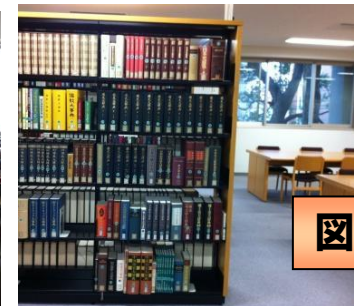
資料

図書 約60万冊、雑誌 約9200種

他に考古美術、地理民俗、文革期刊行物



共同研究施設



図書室

Ⅱ 活動状況

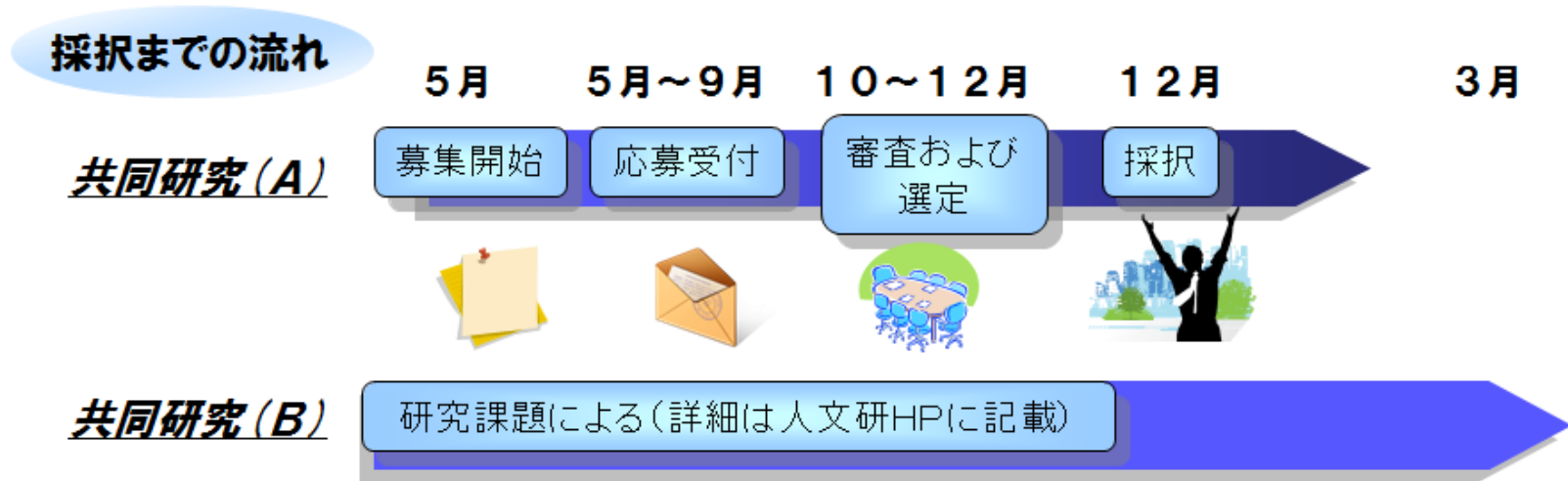
1. 情報発信の取組状況

(1) 共同研究の募集

- ① 課題公募型共同研究(A班)： 課題自体と班員を募集
- ② 参加者募集型共同研究(B班)： 課題は所内で選考し、班員を募集

随時ウェブサイトの情報を更新

研究者コミュニティを通じた広報活動



(2) 共同利用の推進

人文研所蔵資料のデジタル化と公開

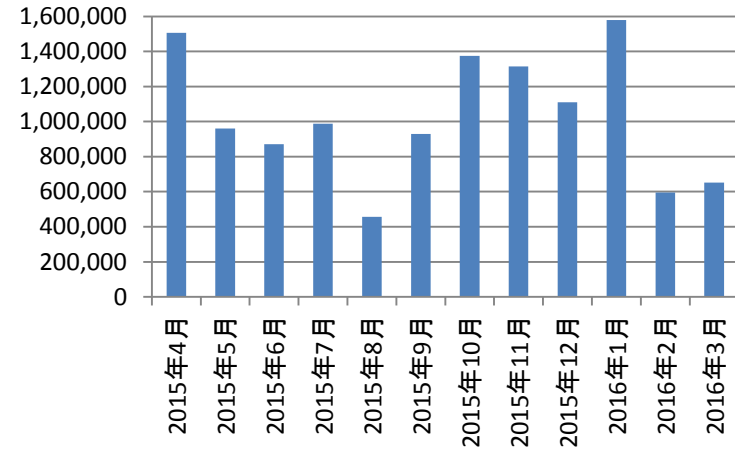
データベース利用状況

データベース名	アクセス数
京都大学人文科学研究所所蔵石刻拓本資料(拓本文字データベース)	12,335,170
全国漢籍データベース	2,647,584
東洋学文献類目	9,564,076
CHISE 文字オントロジー	2,941,037
東方学デジタル図書館	1,703,506
所蔵中国雑誌	166,638
地図	346,106
戦後日本における朝鮮史文献目録	140,000
戦前日本在住朝鮮人関係新聞記事検索	70,000
朝鮮通信使関係資料目録	68,000
南インド寺院管理判決文データベース	10
ミクロ人類学文献・大学院文献データベース	100
性文化研究基本文献・資料データベース	250
〈近代日本の南方関与〉に関する戦後日本刊行文献目録	6,000

年間1500万件のアクセス

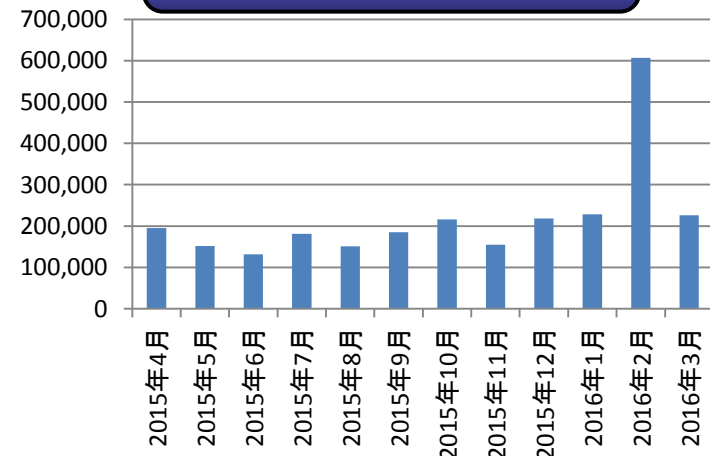
拓本文字データベース

(2005年2月18日運用開始)



全国漢籍データベース

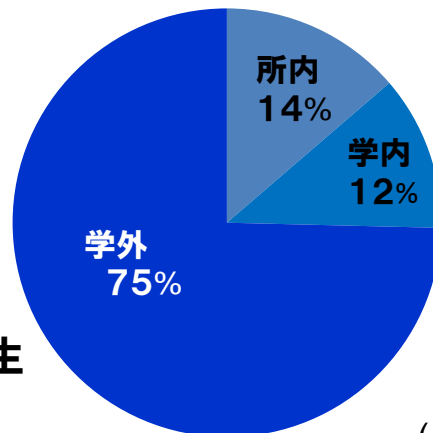
(2002年3月6日運用開始)



2. 共同研究を通じた人材育成

(1) 大学院生、ポスドク研究者への参加呼びかけ

共同研究班員の構成



全体の約2割強が大学院生

(2015年度実績)

(2) 日本学術振興会特別研究員や海外の若手研究者の積極的受入れ

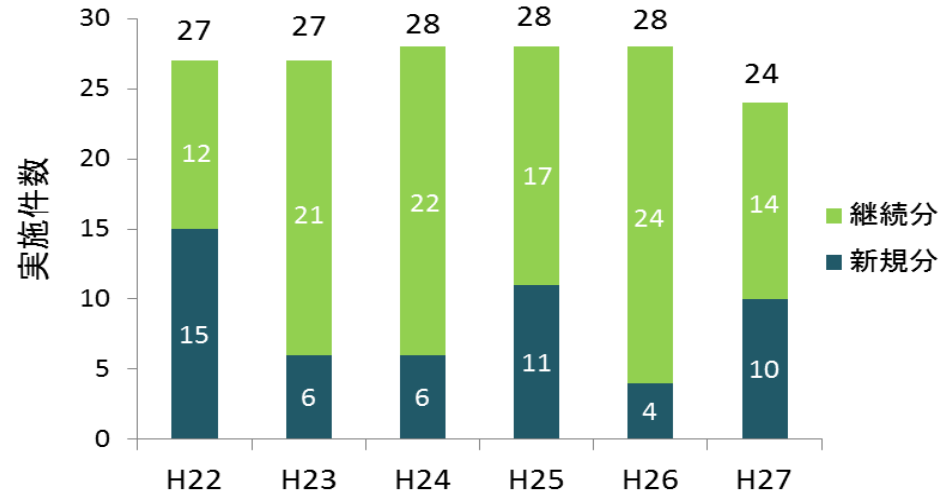
学振特別研究員	研修員	研究生	研究員	RA	オフィス・アシスタント	研究支援推進員	合計
18	1	5	15	1	6	2	48

(2016年3月現在)

3. 共同研究の件数



共同利用・共同研究課題の実施状況



4. 共同研究でしか成し得ない研究成果(H27年度)



『現代思想と政治 資本主義・精神分析・哲学』(平凡社 2016年1月22日刊)

構造主義以後の諸潮流は、資本主義と主体の問題系の交点で、政治をいかに捉え、それに関わってきたか。「現代思想」の理論的・歴史的意義を包括的に問い直す、公募共同研究の成果

『雲岡石窟』(科学出版社東京 第3期は2015年5月に刊行)

龍門と敦煌に並ぶ中国三大石窟の1つであり、2001年にユネスコの
世界遺産に登録された雲岡石窟を初めて包括的に調査した調査報告書



5. 基幹的研究班体制の整備

- ① 人文学の基本に関わる大きな課題を設定して、
共同研究の新たな可能性を切り開く
→ 総合性に根ざした挑戦的な試み
- ② 拠点としての活動を見えやすくする
→ 国際的発信力の強化

H27年度新規開始班の例

課題公募型共同研究班

「チベット・ヒマラヤ文明の史的展開の学際的研究」班

班員それぞれの研究関心に沿った研究報告を依頼し、歴史学、文化人類学、言語学の各分野から、古代～現在にいたるまでのチベット文化の諸相について最先端の研究報告を聞くことができた。

参加者募集型共同研究班

「『文史通義』研究」班

『文史通義』内篇五巻を訳出することを目的としており、すでに巻一を訳し終え、『東方学報』に投稿するため、原稿整理の段階にある。

6. 共同研究への参加状況 (H27年度延べ人数)



区分	延べ人数			
		うち、 外国人	うち、 若手研究者 (35歳以下)	うち、 大学院生
京都大学	1,134人	527人	450人	533人
国立大学	444人			
公立大学	98人			
私立大学	630人			
大学共同利用機関法人	68人			
独立行政法人等	78人			
民間機関	120人			
外国機関	117人			
その他	318人			
合計	3,007人	(うち、女性研究者 750人)		

7. 共同研究班の開催状況と班員構成

- ・ 毎週または隔週で研究会を開催
- ・ 班員の半分以上が学外のメンバーで構成

➡ **すでに開かれた共同研究拠点として活動**

研究会の
開催状況

毎週	1班
隔週	13班
毎月	4班
その他	6班
計	24班

班員の構成

班員の所属	人数
所内	89
学内	76
学外	485
(大学院生)	(154)
合計	650

学外所属の内訳	人数
国立	88
公立	20
私立	154
他	223

(平成27年度実績)

8. 外国人研究者等の受入人数（H27年度）

招へい研究員	招へい 外国人学者	外国人 共同研究者	研究生
6	13	9	5

外国人研究者等出身国

中国、韓国、台湾、アメリカ、カナダ、デンマーク、ドイツ、イギリス など

9. 学術交流協定締結状況（H27年度締結分）

- ・台湾：中央研究院近代史研究所

10. 科学研究費補助金取得状況（H27年度）

	基盤研究S		基盤研究A		基盤研究B		基盤研究C		挑戦的 萌芽研究		若手研究B	
	新規	継続	新規	継続	新規	継続	新規	継続	新規	継続	新規	継続
件数			1	3	2	9	9	4		1		9
金額(千円)			5,400	16,200	6,900	30,700	10,900	4,000		700		6,500

	研究活動 スタート支援		研究成果促進経費 (学術図書)		特別研究員奨 励費		外国人特別研究員 奨励費		合 計		
	新規	継続	新規	継続	新規	継続	新規	継続	新規	継続	計
件数		1	1		6	12	1	1	20	39	59
金額(千円)		1,000	1,800		6,900	12,300	800	700	32,700	71,400	104,100

11. シンポジウム等の実施状況 (H27年度)

(1) 研究者を対象とするもの

- ①シンポジウム・講演会 7件
 - ②セミナー・ワークショップ 143件
- 合計150件(参加人数は3,610人)

(2) 一般の方を対象とするもの

- ①シンポジウム・講演会 4件
 - ②セミナー・ワークショップ 14件
- 合計18件(参加人数は890人)



事業名：「みやこの学術資源」研究拠点形成プロジェクト

法人名：京都大学（人文科学研究所）

事業概要



京都大学

・人文科学研究所
・文学研究科
総合博物館(研究資源アーカイブを含む)

・大学文書館
・京都国立博物館附属図書館
・京都市美術館
・泉屋博古館
・国立民族学博物館
・アンステイチュ・フランセ
・アジア臨地研究欧州コンソーシアム(ECAF)
・フランス国立極東学院(EFEO)
・イタリア国立東方学研究所(ISEAS)
・日本イタリア会館

学術関係機関

学術資源の掘り起し → 先端的人文学の機能強化 → 学術資源情報の公開

絵画資料
映像資料
文書
図譜
図書

京都研究の再構成

・共同研究における学知の伝達
・100年後の人文学への学知の継承
・「目利き」としての京都学派が収集した学術資源
・フィールドワークの伝統

思想史・歴史学・文学

農学・医学・社会学・人類学

ヨーロッパ研究・美術史・文化財学・アジア研究

調査された学術資源のデータ目録を作成



研究成果の国際発信

公開 発信

近代日本・近代京都研究の国際拠点
「みやこの学術資源研究センター」設置

調査 発掘

整理 研究

共同研究
共同事業



京都国立博物館



桑原武夫



アンステイチュ・フランセ



梅棹忠夫

事業の目的・必要性・重要性

目的

学術資源に基づく、日本・京都の先端的人文学の学問的再構成と国際発信

京都のさまざまな学術研究教育機関に所蔵されている学術資源の調査・整理・研究に基づいて、西洋から我が国に移入された近代的学知が、近代以前の伝統的・土着的な知や文化と融合しながら、現代に向けて発展してきた過程を、江戸や東京とは異質な文化的・知的背景をもつ、京都と先端的人文学を展開してきた京都学派の独自性を踏まえ、再構成する。

「みやこの学術資源研究センター」設置

近代日本・近代京都研究の国際的研究拠点へ

必要性・重要性

学術資源の発展的継承

学術資源には、学問が形成されるプロセスが詰まっており、学術資源を発展的に継承し整理・解析を領域横断的に取り組み、後世に向けて伝達していくことは、我が国における近代的学知の構成過程を明らかにする上で極めて重要であることから、平安京以来の学術資源に富む京都の立地を活かし学術資源の情報を集積・保存し国内外の学術研究機関と協力し総合的な調査研究体制を構築するための拠点である「みやこの学術資源研究センター」を設置する。

学術資源を統括するハブ機能の形成

「みやこの学術資源研究センター」は、今までの人文科学研究所の研究・国際発信※等の実績を活かし、①学内の学術情報ネットワークの形成、②学術資源の調査・整理・研究、③国際的学術関係との関係強化および研究成果・情報の国際的発信、④京都大学の先端的人文学の機能強化の4つの事業を取りまとめるハブ機能を形成する。

※本研究では、歴史・文学・人種・科学史など多様な分野の海外からの優れた研究者を年間30人受け入れ、Kyoto Lecturesを恒常的に行うなど、国際発信の実績がある。